

2月17日～2月23日 商品検査実績

●微生物検査 341 検体

検査の結果特に問題はありませんでした。

●理化学検査 109 検体

食品添加物検査	24 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
残留農薬検査	外部検査機関で5 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
簡易農薬検査	21 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
P C R 検査	畜種判別検査	6 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。
	GMO検査	7 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。
	米のDNA異種米判定	今週は実施しておりません。
	コシヒカリ品種判定	5 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。
米鮮度判定	3 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
卵鮮度判定	今週は実施しておりません。	
アレルゲン検査	4 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
ヒスタミン検査	9 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
アフラトキシン(カビ毒)	今週は実施しておりません。	
放射性物質検査(スペクトロメータ※①)	10 検体(米3 検体、野菜3 検体、果物1 検体、水産2 検体、畜産1 検体)実施しました。全て検出下限値(約20Bq/kg)以下となりました。	
放射性物質検査(サーベイメータ※②)	15 検体(野菜7 検体、果物4 検体、きのこ4 検体)実施しました。バックグラウンドとの差異が3※③kcps(キロ・カウント・パー・セカンド)以内となりました。	

- ・ヒスタミン検査＝ヒスタミンによる食中毒は、アレルギー様食中毒の一つであり、鮮度の低下したマグロやカツオ、サバなどの赤身魚やその加工品が原因となることが多いため、検査でヒスタミンの濃度を測定します。
- ・アフラトキシン＝アスペルギルス属の一部のカビが産生するカビ毒で肝臓がんの原因の一つと考えられています。アフラトキシンが作られる最適条件は、温度30℃前後、湿度95%以上であるため、高温多湿の熱帯地方等が最も適しています。輸入食品の安全性に関わるため、日本では、輸入時に行う抜き取りのカビ毒検査やカビそのものが生育していないか外見上の検査を実施しています。なお、日本国内で、食品にアフラトキシン汚染が起きる可能性は低いものと考えられています。

※①NaI シンチレーションスペクトロメータ：遮蔽体付検査機器で核種を特定できるもの：ヨウ素 131、セシウム 134、セシウム 137 を測定

※②NaI シンチレーションサーベイメータ：遮蔽体無しの持ち運びできる機器：ガンマ線総量を測定

※③kcps(キロ・カウント・パー・セカンド)：1秒間に対象となるものから何回放射性物質が放出されているか測定するものです。奈良県行政と同様にバックグラウンド(放射線測定の際の測定対象以外からの放射線で宇宙線や天然の放射性物質に起因する)との差異を3以内としました。



組合員さん VOICE

組合員さんの 想いにこたえて

みなさんから寄せられた声を商品・運用にいかす取り組みをしています。

「天然ゴム厚手手袋 スーパーロング」という全長58cmの長いゴム手袋をリクエストします。長いのに、さっとはめてさっとぬげるし、長袖が濡れなくてとても助かるのです。

実現 しました

商品のリクエストをいただきありがとうございます。「天然ゴム厚手手袋 スーパーロング」は、しばらく案内できておりませんでした。このたびのご要望により、3月4回くらしのパートナーで案内することになりました。この商品は、腕全体をカバーできる長い手袋で、手のひらにはすべり止め加工をしております。この機会にぜひご利用をお願いいたします。



今月のお知らせ カセットコンロの取り扱い時の注意事項



おうちや屋外での料理に便利に使えるカセットコンロですが、取り扱いに注意しないと、爆発などの事故につながる可能性がありますので、いくつかの注意事項をお知らせします。

- カセットコンロを覆うような大きな調理器具の使用や、カセットコンロを2台以上並べて使うと、カセットボンベが過熱し爆発の危険があります。
- カセットコンロに指定されているカセットボンベを正しく取り付けて使わないと、ガス漏れや火災の危険があります。
- ご使用時は一酸化炭素中毒や、酸欠を防ぐために換気に注意してください。
- カセットボンベを廃棄する前に、ボンベを振ってシャカシャカと音がする場合はガスが残っているので、完全に火が消えるまでガスを使いきってから、地域のルールに従って廃棄してください。

これらの他にもご注意いただきたい事項がありますので、商品に記載されている注意事項を十分ご確認の上、安全にご使用ください。



商品検査レポート 1月に実施した商品検査の結果をご案内します。

毎月の検査結果はHPIにも記載しています。▶<http://www.naracoop.or.jp/goods/letter/kensadayori.html>

検査項目	検査数	特に問題となる商品はありませんでした。								
微生物検査	992	特に問題となる商品はありませんでした。								
理化学検査	検査数	主な検査項目	食品添加物 (一部外部検査へ依頼)	簡易農薬	畜種判定	残留農薬 (外部検査機関へ依頼)	ヒスタミン	カビ毒	検査の結果、いずれも問題ありませんでした。	
	381		81	52	6	20	38	4		
放射性物質検査 (NaIシンチレーション スペクトロメータ※①)	検査数	米	野菜	果物	牛乳	鶏卵	水産	冷蔵日記	飲料	検査の結果、 全て検出下限値 (20Bq/kg)以下でした。
	59	6	14	13	11	8	4	2	1	
放射性物質検査 (NaIシンチレーション サーベイメータ※②)	検査数	野菜	果物	きのこ	検査の結果、全てバックグラウンドとの差異が ※③3kcps (キロ・カウント・パー・セカンド) 以内となりました。					
	15	8	4	3						

※①NaI (エヌイーアイ) シンチレーションスペクトロメータ: 遮蔽体 (しゃへいたい) 付検出器で核種を特定できるもの: ヨウ素131、セシウム134、セシウム137を測定

※②NaI シンチレーションサーベイメータ: 遮蔽体無しを持ち運びできる機器: ガンマ線総量を測定

※③kcps (キロ・カウント・パー・セカンド): 1秒間に対象となるものから何

回放射性物質が放出されているか測定するものです。バックグラウンド (放射線測定の際の測定対象以外からの放射線) で宇宙線や天然の放射性物質に起因するとの差異を3以内としました。NaIシンチレーションサーベイメータではガンマ線総量を測定し、検出が疑われる場合は、NaIシンチレーションスペクトロメータで確認検査を行うこととされています。

